

質問 1. 地域福祉の推進に際しての障害者施策のあり方

仙台市障害を理由とする差別をなくし障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例が本年四月に施行され、各障害者団体や当事者からはさまざまな思いで、今回の法整備を喜んだときでありました。当然ながら、条例ができて終わりではなく、これからどのように進むかが大事であります。

そこでお伺いするのは、平成二十四年度末まで事業を行っていた、ふれあい福祉バス事業についてであります。

この事業は、昭和五十二年に市内の社会福祉団体が行う研修、視察等の自主的活動を支援するため、仙台市の委託事業として、委託先は社会福祉協議会が行い、平成十九年度には本市の委託事業から社会福祉協議会への補助事業に切りかえ、実施してきました。そして、平成二十四年度、レジャー的要素の強い施設への訪問が多いことや、当初の事業目的と異なる利用状況であったことから、車両リースの終了を機に事業を廃止しました。

このことは、平成二十四年第二回定例会で先輩議員が一般質問をさせていただいておりましたが、改めて状況が変化した場合、この事業にかかわる数点についてお伺いいたします。

まず初めに、ふれあい福祉バス事業が廃止になり、その事業の代替施策として位置づけている平成二十五年度に創設した支え合い活動推進費助成金は、市内の地域住民で組織する団体または福祉関係者が、団体間のネットワーク構築や地域福祉の担い手の育成を目的とする研修等を実施する場合に、その活動費を助成し、住民同士の支え合い活動等の地域福祉活動の推進に寄与することを目的として、助成制度があります。

助成対象事業は、一、人材、コーディネーターの育成、二、話し合う場づくり、三、地域内の見守り、支え合いの促進、四、災害時要援護者支援体制の構築とあり、大枠四項目に分け、本年の助成金額は一団体につき上限四万円で、年額の総枠は十団体の四十万円となっております。

まず、おのおのの事業の実績と事業費を調べると、ふれあい福祉バス事業において、平成二十四年度で事業が廃止になりましたので参考という形になりますが、利用実績は延べ三百三十件、利用人数一万六百七十八人、事業費は仙台市の負担金が二百六十万六千円余、社会福祉協議会の負担金が六百十万円余、平成二十三年度は震災の影響を受けておりますので参考にならず、平成二十二年度利用実績は延べ三百七十三件、利用人数一万二千二百十五人、事業費は仙台市の負担金が五百四十八万九千円余、社会福祉協議会の負担金が五百四十九万九千円余でありました。

一方で、支え合い活動推進費助成金の利用実績は、平成二十五年度四件、平成二十六年二件、平成二十七年二件と、ふれあい福祉バスの事業から大きく減少している現状です。

これはふれあい福祉バスが廃止になり、代替施策としての活用は大きな疑問を感じます。そこでまずお伺いしたいのは、比較対照年度として、平成二十二年度が年間を通して事業廃止になる前に適正に運営された年度として比較をし、仙台市の負担金だけ照らし合わせると九割以上の金額まで補助対象金額が減少されています。

当時の現状を考えれば、財源的に震災復興に充てることはある程度想定できますが、そのようになった根拠をお示ください。

当時の一般質問の市長や当局の御答弁をひもとくと、レジャー施設や観光地に行かれることが多くなっているのが廃止になった要因と認識しましたが、当然ながら、観光地やレジャー施設に行くことは、人が動くことによって物とお金が流通すると思います。

ふれあい福祉バスの廃止について、奥山市長の御答弁で、仙台市に入庁したときの思いを、そして福祉バスにバスガイドとして添乗していた話をされ、社会状況の変化の中、三十五年間運営をし、一定の成果もあったということで、廃止という結論を議会と市民に理解を求めたわけでありました。その代替施策である支え合い活動推進費助成金について、どのようにお考えか、お示ください。また、仙台市障害を理由とする差別をなくし障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例の施行後、二カ月余りですが、障害者施策を肝いり課題としている市長の思いについて、御所見を伺います。

答弁 1. 奥山恵美子 市長

障害のある方もない方も、市民お一人お一人が多様な人格と個性を尊重し合いながら、自分らしく、自立と社会参加を実現できるまちづくりを進めていくことは、このたびの障害を理由とする差別をなくす条例の趣旨からも、また、市民誰もが地域の構成員として、地域福祉の担い手となり得る環境づくりの観点からも、非常に重要であると認識をするものでございます。

障害のある方の社会参加に向けた施策の御提案でございますが、私といたしましては、障害者施策全体の中で行政の関与や支援のあり方など、多方面にわたって幅広く検討する中で、障害のある方々がこれまでも増して一層、主体的に活動できる環境づくりに取り組んでまいりたいと、このように考えているところでございます。

また、地域福祉を推進する上での施策のあり方につきましては、住民の交流や地域福祉の担い手育成の研修等に助成を行うことにより、見守りや支え合いの活動を促し、それにより地域の福祉力が高まる効果を期待するという所期の目的に照らし、効果が十分発揮できますよう、改善を図ってまいりたいと考えております。

そのほかの御質問につきましては、関係の局長から御答弁を申し上げます。

以上でございます。

質問 2. 支え合い活動推進費助成金について

平成二十八年度において支え合い活動推進費助成金事業は、現在、第一次募集期間であり、昨日が締め切り日となっております。事業が平成二十五年にスタートして、いずれの年度も低実績であることが問題であり、疑問を感じます。この事業が正しく、そして必要なところに周知、告知がされていないのではないかと考えますが、どのように周知、告知しているのか、担当局にお伺いいたします。

また、前段で述べたように、対象事業の三、地域内の見守り、支え合いの促進とありますが、具体例として、地域住民の交流を促進するために行う事業とあり、事業例としては、見守りのしおりづくり、居場所づくり、サロン活動等とあります。そこで御提案したいのは、障害者団体において居場所づくりは、観光地に外出の機会を創出することや、社会参加の一環として必要なことであると考えます。

障害者団体を特別扱いはありませんが、観光地に行かれたからといって、補助の受け付けを断るのではなく、観光地に行かれたならば、障害者当事者だからこそわかるバリアフリーの現状という内容の報告書を別紙設けるなどをして、対応してはいかがでしょうか。障害者団体のような申し込みについて、ある程度の規制緩和が必要と考えますが、御所見を伺います。

答弁 2. 佐々木洋 健康福祉局長

私からは、支え合い活動推進費助成金に関する数点の御質問にお答えいたします。

初めに、予算の根拠についてでございます。この助成金の予算につきましては、平成二十四年度に廃止したふれあい福祉バス事業の実績のうち、本来の研修等を目的として利用した団体数をもとに二十五件程度の利用を見込んだもので、平成二十五年より昨年度までにおいて百万円の予算を計上してきました。今年度の予算におきましては、過去三年間の利用状況を踏まえ、十件程度の利用を想定し、四十万円の予算を計上したところでございます。

次に、支え合い活動推進費助成金の周知についてでございます。これまで実施主体である仙台市社会福祉協議会のホームページへ掲載の上、各区社会福祉協議会事務所での募集要項の配付を行い、また、各地域で福祉団体等のネットワークづくりを担う地区社会福祉協議会に周知を行ってまいりました。

さらに今年度からは、仙台市障害者福祉協会などを通じて個々の障害者団体に対しても周知の範囲を広げたところであり、引き続き周知に努めてまいりたいと考えております。

次に、支え合い活動推進費助成金の障害者を対象とした要件の緩和についてでございます。障害者の社会参加の促進は重要であるとの観点から、これまで本市といたしまして、障害者ふれあい乗車証の交付やレクリエーション教室の開催などの事業を展開しているところでございます。

一方、支え合い活動推進費助成事業は、地域団体等の研修、交流など、地域福祉の推進を目的として、その資料作成、会場使用料や交通費等を助成しているものでございます。

今後、当該助成事業の目的の範囲において、対象となる活動の要件も含め、どのような工夫が可能であるか検討してまいりたいと考えております。

最後に、支え合い活動推進費助成のあり方についてでございます。この事業は、福祉バスにかわる支援策として、地域の方々が主体となり、住民同士の支え合い活動や担い手の育成など、共助の力を高める活動について広く御利用いただけるよう助成しているものでございます。

しかしながら、これまでの利用状況を見ますと、周知のあり方や申請手続等に工夫の余地があるものと考えております。今後、地域の課題が複雑多様化することが見込まれます中で、地域の支え合いを進めていくための施策の一つとして、この事業がより活用されますように取り組んでまいりたいと考えてございます。

質問 3. 図書館における読書通帳の導入

さきの第一回定例会で、同会派の先輩議員により、本市が政令指定都市になる前から現在に至るまで図書館振興計画を伺い、また他都市との比較により、設置状況や適正配置等、図書館網について質問をし、課題を認識し、検討を行うことの御答弁をいただきました。そこで、さらなる仙台市図書館の魅力向上をするために、数点伺います。

さて、T S U T A Y A が多賀城市の図書館をプロデュース、震災復興事業として J R 多賀城駅周辺を中心市街地整備計画を行い、本年三月二十一日に多賀城市立図書館が移転オープンをしました。オープン後、多賀城市立図書館は、利用者が計画を上回る状況で、また多賀城市の長年の課題であった駅前のにぎわいが創出され、ますます注目を集めている図書館であります。

私も学生時代、多賀城駅を最寄りの駅として利用していたので、数十年前の駅とは大きく街が変わったことを実感します。多賀城市立図書館はさまざまな魅力がありますが、今回取り上げたいのは読書通帳であります。

読書通帳とは、銀行の A T M のような専用端末に通帳を通すと、自分が読んだ本のタイトルや貸し出し日を記録できる仕組みであります。全国的に初めて読書通帳の端末を設置した山口県の下関市立中央図書館は、導入後、これまで年間二千人だった新規登録者が、開館六カ月で八千百人を突破したということであります。機械の導入費用は、一台五百万円程度かかります。

そこで、本市の平成二十七年度仙台市図書館要覧を見ると、平成二十四年度以降、三年間の利用者数は延べ百三十万人程度で、登録者については十一万人程度であります。読書通帳を導入することで起爆剤として、利用者数と登録者数の増加が期待できますが、どのようにお考えか当局の御所見を伺います。

先行導入している他政令指定都市に成果を伺うと、子供たちは本を読むことがふえ、図書館に足を運んでくれる機会が格段に増加しているとのこと。一方で、現状はスマートフォン等で本を読むことが可能になり、実際に本を手にとるという読書離れが憂慮され、未就学児や小学生のうちから図書館に来てもらう施策を考えなければいけない時期に来ているように感じます。その問題もこの読書通帳が一定の役割を担えると考えますが、御所見を伺います。

本市の図書館は、主要七館で分室が十室あります。本来は主要七館全てに導入をお願いしたいのですが、財政的に厳しいようであれば、試験的な取り組みとして、利用者数の多いせんだいメディアテーク内にある仙台市民図書館に先行導入を期待します。また、我々大人でも預金が多まった通帳を記載するのはうれしいことです。しかも預金通帳では減るということもありますが、この読書通帳は減ることはなく、本を借りて読めば読むほどふえるだけであります。通帳のデザインについても、本市の特徴を踏まえたものにしてもらうことを御提案いたしますが、御所見を伺います。

答弁 3. 大越裕光 教育長

御例示のありました図書館につきましては、大規模な新館の魅力が利用の拡大に結びついているものと考えられますが、読書通帳導入もその魅力の一つであり、特に子供の利用や登録の増加が期待できるものではないかと存じます。

読書通帳につきましては、子供たちが本に親しみ、図書館を利用するきっかけとなり、特に未就学児や小学生の場合には、お話し会や読み聞かせなどの開催に合わせて、読書通帳を活用することにより、こうした効果を期待できるものと存じます。御指摘の専用端末機械で記帳するタイプのものにつきましては、費用面での課題が大きいところでございますが、お薬手帳のようにシールを張るものや、借りた本を自分で記入する読書ノートなどの手法においても、子供の読書の励みとなりますことから、今後このような手法を含め、検討してまいりたいと存じます。

質問 4. 読書通帳について (再質問)

読書通帳なんですが、課題があるのは重々承知で、お薬手帳タイプ、また自分で書くということも重々承知の上で質問させていただいたんですが、あの端末を入れることによって、登録者がふえたり、利用者がふえたりということで質問をさせていただいておりますので、そういったところも含めて、もう一度御答弁をよろしく願いいたします。

答弁 4. 大越裕光 教育長

今御指摘のありました、専用端末機械での記帳タイプ、いわゆる銀行通帳のようなタイプでございますが、先ほども御答弁させていただきましたが、通帳そのものだけの問題ではなく、端末機という非常に高価な機械の導入というのは、先ほども述べさせていただきましたが、かなりの費用の面があるというふうに聞いております。そして、仮に仙台市に導入するとすると、仙台市、分館含めて七館ございます。そういう点や、仙台市民のお子さんを中心にしても相当の人数が必要になるというようなことで、今なかなか課題としてはハードルが高いのかなというところで述べさせていただきました。当面、今お薬手帳のようなお話をさせていただきましたが、もう少し私たちが全国の状況も調べて、利用する側にインセンティブとしてどういうものがあるのか、幅広には調査して、なお検討させていただきたいと存じます。

質問 5. 八木山動物園に移動販売車の導入について

昨年十月で八木山動物公園が開園をして五十周年を迎え、また十二月には地下鉄東西線が開業し、地下鉄を利用して、西の終着駅である八木山動物公園駅には、隣接している八木山動物公園や八木山ベニランドに向かう多くの市民が利用していることを認識いたします。

そして、八木山動物公園駅立体駐車場やキリン駐車場、ゾウ駐車場には、大型バスにも対応し整備することにより、来園する利用者にとっては、地下鉄を使っても自家用車で来園しても、受け皿の環境は数年前とは大きく改善されたことを、市民の一人として非常に喜びを感じています。

そこで、ここ三年間の入園者数を調べてみると、平成二十五年度は四十八万四千六百六十九人、平成二十六年度は四十九万一千八百五人、平成二十七年度は五十五万七千七百七十九人であり、右肩上がりです。来園者数の増加により、公園内の食堂についても、売り上げ金額はここ三年間、右肩上がりの状況です。

平成十九年に八木山動物公園運営方針に基づく再整備計画を策定し、平成二十五年度に見直しを行い、本年第一回定例会で上程された議案で、（仮称）ふれあい動物園等新築工事で、ふれあい動物舎と飲食物販棟が平成二十九年三月に完成予定です。ふれあい動物舎は、ヤギや羊、タカやインコ、アイアイやカピバラなどの動物たちと触れ合うことを中心としたエリアです。また、実際に従事する現場職員の皆様の意見を酌み取って設計したとお聞きしています。そのことも現場目線で非常にいいことだと感じます。

飲食物販棟においては、新たな飲食スペースや屋外テラス席など予定であります。座席数百八十八席が追加されると伺っております。そこで今回伺いたいのは、この右肩上がりの状況を引き続き保つことにより、さらなる来園者増加とフードコート整備の充実、新たな魅力ある動物園づくりという視点で、数点伺います。

来園者数が多くなることにより、特に夏休みやゴールデンウィークなど繁忙期は、フードコートが不足しているということ、多くの市民から声をお聞きします。飲食物を頼むのに行列ができ、時間がかかり、そしていざ食事をするテーブルや椅子が一部老朽化しています。八木山動物公園内の飲食施設は四店舗あり、総テーブル数は七十四台、総座席数は三百四十四席であり、内訳は、森の食堂、テーブル数四十二台、座席数百九十二席、アフリカ園売店はテーブル数十五台、座席数五十八席、さるやま売店はテーブル数十二台、座席七十二席、ペンギン売店はテーブル数五台、座席二十二席となっています。そのほかに、お山の売店は飲食物を購入後、少し離れた休憩所で食します。

ピーク時の入園者数には、絶対的に売店の数もテーブルも椅子も不足していると言わざるを得ない状況です。特に老朽化の目立つ森の食堂や、さるやま売店の飲食スペースについて、早期の改善を求めます。また、繁忙期の飲食施設数の不足について、認識と課題を御当局に御所見を伺います。

さて、某サイトによるアンケートで、二〇一五年人気動物園の一位に輝いた和歌山県白浜町のアドベンチャーワールドは、ことしの繁忙期であるゴールデンウィークにパンダのいなり寿司という商品を露店販売して対応し、大変好評を得たとお聞きしました。

そこで私が伺いたいのは、八木山動物園にデリバリーカー、いわゆる移動販売車の導入であります。移動販売車は、固定の店舗とは違い、夏休みやゴールデンウィークの繁忙期に飲食店の補充をすることができる魅力があります。

つい昨日、地元テレビ番組を見ていたら、移動販売車の特集が組まれていました。御紹介していたメニューは、メロンパンアイス、サニーサイトコーヒー、元祖仙台ホットックという商品でありました。個人の感想ではありますが、特にメロンパンアイスは、仮に動物園にあったら、子供も大人も喜ぶ商品だと感じました。そして、商品の魅力もありますが、何より多くの移動販売車は車両そのものが色鮮やかで、動物園にあったら子供たちがより一層喜ぶ顔が得られ、子供たちが多い動物園にはぴったりだと私は感じました。

一方で、動物園には悪天候時や冬季の閑散期があるために、無益に店舗をふやしても課題が残るばかりなので、動物園の繁忙期である春休み、夏休み、夏休み夜間営業、ゴールデンウィーク、昨年のシルバーウィーク等の期間限定で出店できるデリバリーカーの導入を提案させていただきますが、御所見を伺います。

次に、入園者数の多い繁忙期に確かなデータをもとに、その期間はデリバリーカーを導入して、また季節によっては仙台の食の魅力アピールすることも可能だと考えます。

具体的には、先月行われたG7仙台財務大臣・中央銀行総裁会議の際に、秋保の地にて行われた秋保フェスでは、たくさんメニューの中、芋煮も提供しておりました。五月の秋保の夕方は若干肌寒く、体を温めるためにも非常に喜ばれ、食が進んでいました。

そのほかの地元、仙台、宮城のメニューを考えると、B級グランプリに出品した油麩丼やマーボー焼きそば、ずんだシェイク等、このようにメニューを考えるだけで、さらなる魅力が創造できます。デリバリーカーを導入することにより、動物園は飲食店の補充ができ、事業者は商売チャンスが広がり、互いにとって利益のある状況です。つまりウイン・ウインの関係にあると考えます。

出店する事業者は地元企業を優先するなどにして、一定のテナント料をいただき、そのテナント料は老朽化しているフードコートのテーブルや椅子、園路の休憩用の椅子に充てるなど、対応していくことを御提案いたしますが、当局の御所見を伺います。

答弁 5. 村上貞則 建設局長

八木山動物公園の繁忙期におきましては、飲食施設及び座席数が不足し、御利用のお客様に御不便をおかけしている状況でございます。現在、来年春オープン予定の（仮称）ふれあい動物園に合わせ、新たに百八十八席の飲食物販スペースを整備する予定でありますことから、その利用状況を勘案しながら、森の食堂や、さるやま売店の改修について検討してまいりたいと考えております。

次に移動販売車の導入についてでございます。特に来園者の多いゴールデンウィーク期間などにおきましては、一時的な対応として、移動販売車の導入は有効な方策の一つであると認識しております。

導入に当たりましては、都市公園区域内での設置許可やテナント料の設定など課題はございますが、来園者へのサービス向上や、動物公園の魅力アップなどの観点から、社会実験などの手法も含め、今後検討してまいりたいと考えております。

質問 6. チンパンジーの脱走対策について

本年四月十四日に、チンパンジーのチャチャが脱走し、全国的にも放送され、八木山動物公園が一時有名になり、その後の問い合わせは園の管理不足の指摘が割で、残りの九割はチャチャの安否を心配する内容であったとお聞きました。捕獲の状況をテレビで見ると、麻酔が効き、電柱から落下する光景は衝撃的でありました。

先日、動物園を視察させていただきましたが、元気であることがわかり安堵いたしました。不幸中の幸いで、チャチャの脱走が来園者に被害がなかったことをよしとし、改めて脱走した原因と、来園者や職員が安心・安全に動物園を楽しく過ごせる施設であるために、今後どのような整備計画になっているかをお示しく下さい。

答弁 6. 村上貞則 建設局長

脱走の原因につきましては、専門家を交えて検討を行った結果、観覧場所までの距離が不足していたものと判断し、現在改修案について検討を重ねているところでございます。

今後の動物公園の施設整備につきましては、現在工事中の（仮称）ふれあい動物園の整備を進めた上で、老朽化の状況などを踏まえ、そのあり方を検討してまいりたいと考えております。

質問 7. 地下鉄東西線沿線施設との連携について

昨年七月にオープンした仙台うみの杜水族館は、仙台市の交流人口をふやす新たな観光地として、県内外から多くの観光客が訪れています。昨年は七月に仙台うみの杜水族館開園、十月に八木山動物公園開園五十周年、そして十二月に地下鉄東西線開業に伴い、東の終着駅の水族館、西の終着駅の八木山動物公園をつなぎ、地下鉄東西線の利用を促進するために、試験的な取り組みとして仙台うみの杜水族館、八木山動物公園、地下鉄一日フリーパス券があってもおもしろいと考えますが、担当局に御所見を伺います。

答弁 7. 村上貞則 建設局長

地下鉄東西線沿線施設との連携についてでございますが、仙台うみの杜水族館など、沿線施設等五者で構成される東西線沿線AP協議会において取り組んできたところでございます。

御提案のフリーパス券の導入に当たっては、各施設における割引料金の設定など課題もございますことから、本協議会として取り組んできたスタンプラリーの改善などを行いながら、地下鉄の利用促進に向けて引き続き検討してまいりたいと考えております。

最後に、今後の動物園のあり方についてでございます。長年市民の皆様に親しまれている八木山動物公園は、おかげさまで昨年開園五十周年を迎えることができました。また、昨年十二月の地下鉄東西線の開業を契機に、インコなどの鳥が飛ぶ姿を披露するショーであるフリーフライトなどのイベントや、(仮称)ふれあい動物園の整備など、新たな魅力づくりを進めているところでございます。

今後とも未就学児や小学生の学びとなることなど、人と動物が快適に過ごすことができ、動物を身近に感じられ、地下鉄でのアクセス性がよい都市型動物園として、さらに魅力ある動物園を目指して取り組んでまいりたいと考えております。

質問 8. 八木山動物園五十周年について(再質問)

動物公園の五十周年のあり方ということで、建設局長からはさらなる魅力ということで御答弁いただきましてありがとうございます。市長はどのようにお考えですかということで聞いておりましたので、ぜひ市長の思いもお聞かせください。

答弁 8. 奥山恵美子 市長

私の八木山動物園に対する思いは、ただいま建設局長がお答えしたものとほぼ変わらない、心は一つではないかというふうに思うところでございますが、やはり小学生の方を中心に、本当に絵本やお話の中で見た動物たちを現実に間近に見ることによって、本当に子供たちにとっても情操の教育にもなり、そしてまた実際動物たちの生き生きした様子、特に夜間の動物園開園とか、さまざまな形での学習効果も高い施設でございますので、今後とも百八万市民の皆様、老若男女を問わず喜んでいただけるような動物園になるように、努めてまいりたいと考えております。

質問 9. ハーフマラソン大会

本年度の第二十六回仙台国際ハーフマラソン大会は、新設された文化観光局のもとで、まさしくスポーツと観光が合致したイベントであります。当日は強風の中、一万三千三百三十六人の参加者で大会が開催され、先輩議員とともに微力ながらお手伝いをさせていただきました。

ハーフ登録の部男子は、東北出身で特別招待選手の今井正人選手が、男子日本人選手で十二年ぶりの優勝をして、またハーフ車いすの部は、リオオリンピック出場予定選手の山本浩之選手が優勝されました。これから大会の反省と検証を行うところですが、信じがたいことを伺いました。それは、過去のゼッケンをつけて参加された方がいるということをお聞きしました。

そのように参加している方は、私の調べでは現在一名であり、深掘りすればこのような方がまだまだいるのかと疑問を感じます。これは大きな問題であり、たった一人であるからといって、またセキュリティーの観点からも、正式に申し込みをして残念ながら参加できなかった方の気持ちを考えると、とても許すことはできません。このようになった認識と課題、そして今後の対応について担当局に御所見を伺います。

そのように参加している方は、私の調べでは現在一名であり、深掘りすればこのような方がまだまだいるのかと疑問を感じます。これは大きな問題であり、たった一人であるからといって、またセキュリティーの観点からも、正式に申し込みをして残念ながら参加できなかった方の気持ちを考えると、とても許すことはできません。このようになった認識と課題、そして今後の対応について担当局に御所見を伺います。

答弁 9. 館主輔 文化観光局長

仙台国際ハーフマラソンに関する御質問にお答えをいたします。

正規のエントリーではなく、過去のゼッケン等を利用し、不正に出走するという事案が発生したことにつきましては、大会を運営する実行委員会の一員として大変残念なことで認識をしております。

毎年ゼッケンには開催年度等を記載しており、過去のものとの識別が可能です。表記が小さく判別しにくい点もございますことから、今後改善を検討し、本大会が、参加いただくランナー及び市民の皆様にとりまして、引き続き魅力的な大会となるよう工夫してまいりたいと考えております。